

ぎょうむそくほう

【ダイジェスト】

No.596

2022年11月2日

東海旅客鉄道労働組合

<https://union.jrtu.jp>



「ハートフルカンパニービジョン ⇒2027」の取り組み推進！



~~Japan-Railway-Tokai-Workers-UNION / Japan-Railway-Tokai-Workers-UNION / Japan-Railway-Tokai-Workers-UNION~~

「年末手当」交渉 第2回団体交渉

回復期を支える組合員の頑張りに対し満額回答を主張！

~~Japan-Railway-Tokai-Workers-UNION / Japan-Railway-Tokai-Workers-UNION / Japan-Railway-Tokai-Workers-UNION~~

J R東海ユニオンは、11月2日、2022年度「年末手当」について第2回目の団体交渉を行い、「基準内賃金及び補償措置額の2.9箇月分」「12月9日支給」の満額回答を目指して議論を展開した。

交渉においては、この間、新型コロナウイルス感染症の第7波の渦中においても、コロナ罹患に細心の注意を払いながら日々、鉄道の運行や医療の最前線で社業を支え続け、また中央新幹線計画の推進や関連事業の活性化等にも精力的に取り組んできたこと、上期累計において、年度初の業績予想の前提条件となっている運輸収入の想定を上回るご利用を得て、安定支給ベースでの回答に資する決算となったことを踏まえ、J R東海ユニオン組合員の懸命な努力や高い使命感は、満額回答に十分値するものであること等を強く主張した。

会社は、令和4年度第2四半期決算を踏まえ、「安定支給ベースの重みは十分に認識している」との見解を示したものの、「引き続き、会社発足以来の極めて厳しい経営状況である」との姿勢を崩さなかった。これに対し、ユニオン組合員がエッセンシャルワーカーとして、極めて重要な日本の大動脈や地方交通及び地域医療の維持・発展のために一丸となって取り組んできたことに報いるためにも、年末手当の安定支給ベースである支給月数「2.9箇月」の満額支給を回答すべきであるとの主張を行った。引き続き厳しい年末手当交渉が続くが、「将来にわたる会社の発展と組合員・家族の幸せ実現」のために、生活給の一部でもある年末手当の満額回答を強く要求していく。

すべての組合員が一丸となり、満額獲得に向けて取り組もう！

※議論内容の詳細については、後日発行の「ぎょうむそくほう」をご確認ください。